

へるす・りさーち No.40

名古屋市衛生研究所

危ない腰痛、背部痛を見分けよう！

注意すべき腰痛

腰痛はとても身近な症状です。ぎっくり腰などで受診して湿布や薬をもらったという経験がある方も多いと思います。普通のぎっくり腰は、放っておいても4週間ぐらいで8割の人は痛みが引きます。しかし、痛みが1か月以上続いて、ずっと変わらない場合は要注意です。また、命に関わるような急に発症する腰痛、背部痛は救急対応が必要となる場合があるので特に注意する必要があります。以下に原因の異なる腰痛、背部痛の例をいくつか紹介します。



外傷による腰痛

年配で特に骨が折れやすいような条件を持っている人（例えば、ステロイド剤を飲んでいる人、がんを経験したことがある人）は、外傷の場合も注意が必要です。よくあるのが、尻もちをついたりして、腰が痛くて寝返りが打てない場合。これは**腰椎の圧迫骨折**が考えられます。ただし、胸椎や腰椎の圧迫骨折は、エックス線に写らないことが結構多いので、病院でエックス線検査をして異常なしと言われて帰宅しても、つらそうにしている場合には、圧迫骨折の可能性が否定できないので注意する必要があります。



外傷以外の整形疾患による腰痛

有名なものでは**腰椎椎間板ヘルニア**があります。中腰での重い物の挙上が誘因となることが多いです。片側だけの下肢痛と筋力低下がみられることがあります。他には**脊柱管狭窄症**や**脊椎すべり症**などいろいろな疾患があります。腰の痛みが出てきた場合は、まずは整形外科で一度診てもらおうと良いでしょう。



腫瘍による腰痛

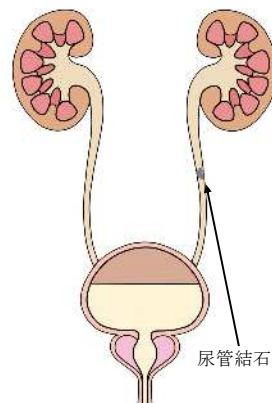
中高年で腰痛があるため検査したところ**貧血**があり、さらに検査したところ意外にも**血液のがん**だったということも少なからずあり得ます。また、どこかの**臓器のがん**

が腰椎に転移して腰痛を起こしている場合もあります。女性なら卵巣腫瘍や子宮体がんで腰背部痛を自覚することがあります。これらの場合は、じっとしていても痛みがありますので、自覚症状があればすぐに受診をする必要があります。また、背部から腰部の鈍い痛みは、**膵臓や腎臓などの病気**が原因ということもあり得ますので、心配な方は早めに受診すると良いでしょう。



尿管結石による腰背部痛

尿管結石では、突然背部の激痛がおこります。背部痛でも腰痛と感じる人もいるためここに取り上げました。夜中でも救急を受診する患者さんがいますが、それは正解の行動と言えます。なぜかという、**大動脈解離**や**大動脈瘤破裂**という命に関わる緊急の病気と同じように主に腰背部に激痛が生じるからです。救急の医師は主に腰背部の突然発症の激痛と聞いて、患者の年齢や既往歴等から尿管結石を強く疑った場合でも、**大動脈解離**と**大動脈瘤破裂**ではないということを確認します。そして大動脈に解離や瘤の破裂はなく尿管結石だと確定診断された後は、痛み止めの座薬等を入れてもらい、翌日泌尿器科を受診して尿管結石の治療をするということが多いです。



緊急対応のいる胸背部痛

前の項で触れたように**大動脈解離**と**大動脈瘤破裂**があります。主な症状としては突然の胸痛がほとんどですが、背部痛や腰痛を自覚する場合もあって命に関わる疾患であるため充分注意してください。（この2疾患の詳しい説明はここでは省略しますが、興味のある方は一度調べてみて下さい。）



まとめ

一口に「腰痛」と言っても、放っておいても治るものから、救急受診が必要なものまで、その原因により実に様々です。そこで、

- ・ 安静時の痛みがある場合は早めに受診を！
- ・ 安静時の突然の「腰背部痛」は命に関わることがあるのですぐに受診を！

